

大型車の事故情報計測・記録装置（EDR）について（UN-R169 関係）

● 適用範囲

乗車定員 10 人以上の乗用車及び車両総重量 3.5 t を超える貨物車

● 改正概要

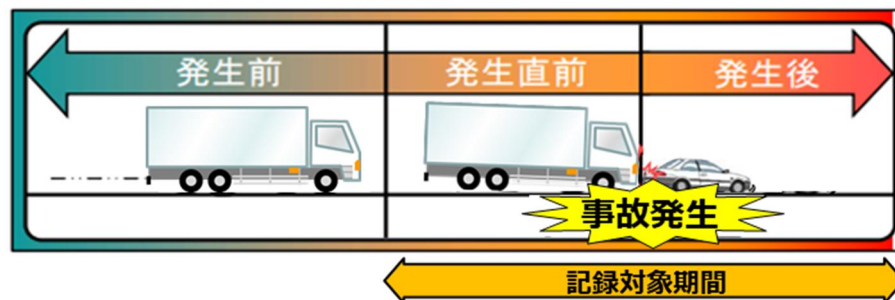
- 事故情報計測・記録装置（EDR）※¹について、新たな国連協定規則として「大型車用事故情報計測・記録装置に係る協定規則（UN-R169）」が、令和5年11月の国連自動車基準調和世界フォーラム（WP.29）において合意されたことを踏まえ、今般国内基準の改正を行う。

※1 「事故情報計測・記録装置（EDR：Event Data Recorder）」とは、事故時に車両の制御等に関する情報（加速度、安全装置の作動状態等）を記録する装置をいう。

- 国連協定規則第169号で求める要件に適合する事故情報・計測記録装置を備えなければならないこととする※²。主な要件等は別添参照。

※2 現行の保安基準では、小型車に対して国連協定規則第160号に適合する事故情報計測・記録装置を備えることを義務付けている。

【作動イメージ】



● 改正時期（予定）

令和6年6月中旬

● 適用時期（予定）

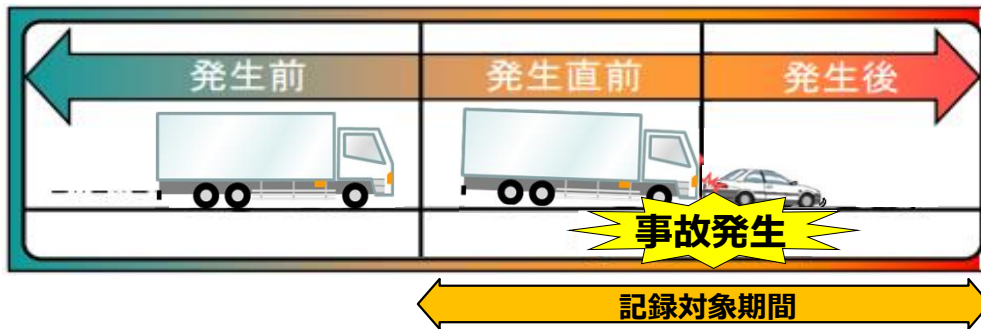
新 型 車：令和8年12月

継 続 生 産 車：令和11年12月

概要・基準改正経緯

- ✓ **EDR(イベント・データ・レコーダー)**とは、**事故時に車両の制御等に関する情報**（加速度、安全装置の作動状態等）**を記録する事故情報計測・記録装置**。
- ✓ **日本が**国連の専門家会議の共同議長を務めながら**議論を主導**。
- ✓ 令和5年11月に**国連協定新規則として合意**、**令和6年6月頃に発効予定**。

大型車EDRの作動イメージ



【作動のメカニズム】

- ① 事故発生前より加速度等の情報を記録
- ② 事故発生に伴う急減速や車両停止等を感じ
- ③ 事故発生直前～事故発生後の決められた時間（上図矢印の期間）の加速度等の情報をEDR内部に記録

【作動トリガー】

以下のいずれかの作動トリガーを感知した場合に事故時の車両の制御等に関する情報を記録

- ・ 急減速：一定レベル以上の急減速を検知
- ・ 車両停止：車両が完全に停止※
- ・ 安全装置作動：エアバッグ、ABS（アンチロック・ブレーキシステム）、AEBS（衝突被害軽減ブレーキシステム）等の作動

※一定時間以上停止、エンジン停止等の条件を満たす場合に限る。

大型車EDR記録情報等の特徴

- 事故発生に伴う急減速や車両停止等を作動トリガーとして、以下の内容等を正確に記録。

記録情報の内容 (一部抜粋)	記録時間〔秒〕 (事故発生時を0秒とする)
① 加速度	-20～10
② 車両速度	-20～10
③ アクセル・ブレーキ・ステアリング操作	-20～10
④ シートベルト着用有無	-1.0
⑤ 衝突被害軽減ブレーキの作動状態	-20～10
⑥ 自動操舵機能の作動状態	-20～10

対象車種

バス、トラック等の大型車